

エスカレーターは歩かないで 京の鉄道 連携の輪拡大



近鉄と共同で啓発うちわを配り、エスカレーターのマナー向上を呼びかける府理学療法士会のメンバーら(京都市下京区・近鉄京都駅)

5事業者と府理学療法士会 合同で広報活動

エスカレーターで歩かずに立ち止まるように呼びかける京都府理学療法士会の取り組みに、協力する鉄道事業者が増えている。今年から近鉄やJR西日本とも共同で街頭広報活動を行い、連携の輪は京都市内の主要5鉄道事業者に広がっている。

配布したうちわ。子どもや妊婦けが人など多くの人が「歩きエスカレーター」に恐怖を感じていることを伝えている



京都市内の駅では、エスカレーターの左側では立ち止まる乗客が多いものの、右側は階段のように駆け上がる人の姿をよく見かける。右側は急ぐ人のために空けておくという誤った認識が広まっていた。

とみられる。

この状況を受け、リハビリの専門職でつくる同会は、半身まひの人は左右いずれかの手すりでしか体を支えられない現状があると指摘。安全のためにエスカレーターの両側で立ち止まることを訴える運動を2019年に始めた。

一方、鉄道事業者側も転倒事故の防止などを目的に各社が協調して同様の訴えを展開している。同会はこれまでに京都市交通局、京阪電鉄、阪急電鉄と連携。美大生にキャッチコピーを依頼して作ったポスターを駅に張り出してもらったなどしてきた。

7月26日には、近鉄京都駅で同会の5人が駅員らと初めて合同活動を実施。「あなたが止まれば、うしろも止まる」「怖い、危ない、痛いをゼロに」などと書かれた同会制作のうちわを観光客らに配った。

8月1日もJR西日本、市交通局と3者合同で京都駅の地下鉄改札口付近で駅利用者へアピールした。

同会エスカレーターマナーアップ推進委員会の玄野遥委員長は「2、3年前は想像できないほどの賛同を得られ、とてもありがたい。患者さんの中には、怖くて最初からエスカレーターを避ける人も多い。多くの人が遠慮なく使え、事故も起こらないようになってほしい」と理解を呼びかけていた。

(高橋道長)